

2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091300048		
法人名	株式会社 ケアリング		
事業所名	グループホーム 竹の庵	ユニット名	1
所在地	〒814-0142 福岡市城南区片江1-20-10 2F		
自己評価作成日	2021年8月22日	評価結果市町村受理日	2022年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2021年11月26日	評価確定日	2021年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は開所より12年を迎えました。職員は日々の業務の中で、ご入居者様に対し、寄り添い、尊重し、思いやりの心をもって接しています。ご入居者様に対し、画一的ではなく個別性をもって「その人らしさ」「その人らしい生活」とは何かを考えながら、日々努力しています。また我々は高いモラルをもって、日頃の食事・排泄・睡眠等の重要性を認識し、「寝たきりにさせない」「刺激を受けてもらう」ことを念頭に、介護、特に認知症介護の専門職として、ご入居者様、ご家族、職員同士の信頼関係を持って業務にあたっています。今後もご家族様や地域、他職種との連携のもとグループホーム竹の庵のご入居者様の生活がよりよいものとなるように精進してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホーム竹の庵”は城南区片江にある。2階建ての2階にホームはあり、1階はデイサービスになっている。隣接する建物は看護小規模多機能事業所であり、3つの事業所が結束して地域貢献を続けている。事業所間の応援体制もあり、3つの管理者同士の情報交換も密に行われている。ホームの理念の1つに「私たちは、入居者様に寄り添い、尊重し、思いやりの心を持って、安心感を提供できるよう支援します」を掲げており、職員全員が愛情を持って日々のケアに取り組まれている。職員個々の長所と弱点も把握し、更なる成長に繋げるための取り組みも徹底しており、管理者が中心になり、声かけやケア等の指導や研修を続けている。法人の社長・常務・専務との連携も密に行われ、ご入居者主体の生活が続けられている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に事業所理念の唱和を行い、それに基づいてのケア、施設運営を行っていくことを日頃のミーティングで確認している、ケアの方法を決める際もこの理念に則って決定している。	2016年頃、現管理者を中心に新しい理念作りに取り組まれた。理念は4つの内容があり、「ご入居者に対して」の内容が2つ、「職員に対して」が2つになっている。“グループホーム竹の庵”として理念の4つ目に「認知症ケアのプロとして、日々学び、ケアの質の向上を目指していきます」を掲げ、チームとしてケアの質の均一化を図るための研修や事例検討会等を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お隣のお家にお花を見に行かせて頂いたり、雑貨屋さんにお邪魔したりするなどして、入居者、職員ともに交流を行っている。	管理者は積極的に地域交流に取り組みられてきた。組長を引き受けた時期もあり、町内会の会合に参加したり、公民館の餅つき等に参加していた。地域の回覧板に施設の案内チラシを掲載して下さり、地域の相談場所であることの発信に繋がっている。隣のお家の方とも交流があり、庭のお花を見学したり、柿の収穫もさせて頂き、お茶と一緒に楽しむ機会も作られている。介護実習生や看護学生、西日本短期大学の実習生も受け入れている。	①今後も認知症サポーター研修を受講し、子ども達へのセミナーを開催していきたいと考えている。 ②コロナ禍でも行える交流方法（動画等）を楽しく検討し、子ども達やボランティア（オカリナ等）の方との交流の機会を増やしていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームでの事例検討結果を町内会長様や民生委員の方に報告したり、地域の中の認知症の方を見守るなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所としての実際の動きを地域の中での報告し、介護従事者としてのリアルなところをお伝えしている。事例紹介も行い、事業所としての認知症ケアの取り組みも紹介している。	同じ敷地内の3つの事業所で協力して運営推進会議を開催しており、感染状況に応じて書面会議も行われている。家族、区役所・地域包括職員、町内の方々（会長・民生委員等）にホームの取組みと認知症ケアの取組みを発信すると共に、介護相談も受けている状況を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度等で、不明な点があれば、電話ないしはメールにて問い合わせるようにしている。	城南区役所の担当者と介護報酬等を情報交換している。不明点がある際は電話等をしており、適宜アドバイスを頂いている。コロナ前は城南区地域密着型部会に参加していたが、コロナ禍はLINEで情報共有している。	

6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	竹の庵では夜間は防犯の為、施錠を行っておりますが、日中はしておりません。過去に身体拘束の事例があり、それを廃止して以降、職員皆身体拘束に対して真剣に考え、拘束を繰り返さないように日々の業務に臨んでおります。	管理者は「人とフラットに接すること」を大切にケアの指導を続けている。2021年3月に「見守りと監視の違い」の研修を行い、ロールプレイング等も行い、日々のケアの振り返りに活かしている。「ちょっと待ってください」という対応についても、「ちょっと」は何分なのかを具体的に伝え、理由も説明する等の配慮を続けている。身体拘束適正化委員会も年4回行い、薬剤師・医師・訪問看護師等からアドバイスを頂き、フィジカルロック、スピーチロック、ドラッグロックに繋がるケアがないかを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアリングでは、人種や性別などあらゆる差別を排除することを企業理念としています。竹の庵でも差別のない、丁寧な介護を心掛け、高齢者虐待防止に関する研修も行っています。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の資料やパンフレットを準備し、またミーティングの場で内部研修会を行い、いつでも閲覧、振り返りを行えるようにしています。	入居契約時に制度の説明をしており、入居後も制度の必要性の確認をしている。内部研修の中で権利擁護の勉強と共に、「認知症の方の意志決定の支援の方法」について学ぶ機会が作られ、意思を表出することが難しい方に対して、意思の無視になっていないか等の振り返りも行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は事前に必ず事業所を直接見て頂くように依頼し、実際の生活の場や、介護の雰囲気を感じてもらったうえで契約して頂くようにしています。説明の際は事業所としての特色や意義、事業所の目指すところを必ず説明しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やそのご家族のご要望に関しては、すぐにできるだけ受け入れるようにしています。ご家族様からの要望は特に要望箱や電話でも伺うとともに、ご家族様から意見が言ってもらえるような雰囲気づくりに努めています。	緊急事態宣言中は30分の面会時間制限を設けたが、感染対策に配慮した面会が続けられ、居室で過ごせる時間も作られている。電話やリモート面会も行い、毎月のホーム便りは管理者が心を込めて作成し、写真を多く載せながら日々の暮らしぶりが伝わるように努めている。管理者・ケアマネ・職員全員で、家族との情報交換を大切にされている。	

11	(8)	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一回のミーティングにて、職員の意見や意向を聞き取り、施設の方向性が管理者やケアマネによって独善的にならないように気を付けている。</p>	<p>各種行事やホーム内の飾りつけも職員の意見やアイデアが活かされている。ご入居者の心身状況等に応じてシフトも検討し、トイレ掃除の時間や入浴の時間帯なども変更している。職員の意識だけが先行しないよう留意しており、知識を身につけることを大切に、敷地内の3つの事業所の管理者が研修内容を検討している。職員個々の弱点に対応した研修も盛り込み、更なる認知症の理解を深める取り組みを続けている。社長は「職員に成長してもらいたい」と願っており、適材適所の異動も行われている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>会社内で年に2回個人評価シートを使用し、自己評価と直属上司による評価を行い、昇給・昇格に反映させています。また研修の希望があれば、受講するように手配し、それを現場に活かしてもらえるように努めています。</p>		
13	(9)	<p>○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>(株)ケアリングでは、年齢、性別、出身などに関係なく、介護に対して優しさや情熱をもって臨む者であれば、従業できます。個々の能力や意向に沿うよう勤務形態を会社全体で考えています。</p>	<p>採用面接時は「身なり」「認知症ケアに対する考え方」等を大切にしている。介護経験の有無に応じて質問を変えており、ホームの介護観と共通点の有無等も丁寧に確認している。「認知症介護で一番大切なことは」「これから認知症ケアをしていきますが、どのようにしていきたいですか」等を具体的に教えて頂いている。採用後も職員個々の特技を發揮してもらい、弱点部分に関する研修受講ができるようにしている。</p>	
14	(10)	<p>○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>外部・内部の研修・勉強会を行い、入居者様を人生の先輩として敬う気持ちを忘れず、尊厳を守るとは何かを考え続けるように指導しています。</p>	<p>理念の2つ目に「私たちは、入居者様のその人らしさを理解し、受容し、敬意を持って支援します」とあり、理念そのものが人権に通じる内容になっている。管理者から日々のケアや声かけの仕方を含め、ご本人の繊細でデリケートな部分に対して丁寧な指導が行われ、専務からも「認知症ケア」の指導があり、年間計画で各種研修が行われている。</p>	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の心身状態や介護技術を把握し、弱点部分に関する研修があれば、受講を促し、職員のレベルアップにつながるように支援している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着部会やGH協議会、また営業活動の機会を通じて他の介護事業所の方と交流を持ち、竹の庵のケアの質や運営に関して向上させていけるように努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーが収集した情報やそれをまとめたアセスメントシートをもとに竹の庵での入居者様の表情や言葉、行動を観察し、それを記録に残し、カンファレンスなどで修正を行いながら、より良い支援の方法を模索していく過程で入居者様との関係構築に努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されてすぐの方のご家族様には積極的にコミュニケーションをとり、面会を行って頂くようお願いしております。またいつでもご意見を頂けるような雰囲気づくりに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーがイニシアチブをとり、カンファの場にて、ご入居者様のご様子やご家族の要望などについて話し合いを行い、訪問診療や訪問歯科、訪問看護などのサービスをいつでも提供できる体制を整えています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	竹の庵では生活の場面で、ご入居者様の人生をひと部分でも知ることで、尊敬の気持ちをもって、教えて頂く意識を持つように努めています。		

21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	竹の庵では、ご入居者様のご家族もケアを行うチームの一員であると考えています。事業所の職員ではできない、ご家族だからできることを事業所側から声掛けし、協力頂けるようお願いします。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人へ会いに行く機会は少なくなってきました。近所へ散歩に出かけたり、DSや看多機のイベントに参加し、そこでの交流が持てるように支援しています。	生活歴を把握するように努めている。ご入居者の馴染みの方や馴染みの場所を家族から聞き取り、日頃の会話の中に盛り込むようにしている。親戚の方が会いに来られたり、お手紙でやり取りをされる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や生活歴、BPSDの頻出時間などを考慮しながら、職員が間に入り、関係が構築できるよう努めています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院やご逝去による退去ののちも、ご家族様との交流の機会を持ち、竹の庵でのお写真をお送りするなどして、ご入居者様との時間をご家族にも知って頂けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入床や起床時間、食事の時間にご入居者様によって違いはありますが、場面ごとに職員が臨機応変に対応しています。認知症の進行により訴えの表出が困難なご入居者様に関しては、必要なニーズを探り、解決できるよう、職員が入居者様本位で考えるように努めています。	ご入居者との会話の中で思いや意向の把握に努めている。家族の方々と定期的に話し合い、ケア方法への疑問の有無や要望を伺っている。意思疎通が難しい方は表情を見ながら思いの把握に努めている。生活歴から行動の背景に繋がる方もおられ、「歩きたい」という思いを大切に移動介助を行ったり、日々の役割を担って頂いている。今後も認知症の理解を深め、ご本人本位に想像を行う引き出しを増やしていきたいと考えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に得られた情報をはじめ、日々の生活の中でご本人の発言から得られるものやご家族様との会話の中で得られるように努めている。		

27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルサインや排泄、水分、食事の摂取量などはもちろん、入居者様の認知症状や職員との関わりを細かく記録し、入居者様の健康状態や生活のリズム、残存機能を把握し、日々異常はないか観察しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーがリーダーシップをとり、入居者様一人一人のニーズや変化をミーティングなどの場にて、職員が議論し、最善の支援方法はなにか模索しています。	長く生活している方もおられる。新しく入居された方とも信頼関係を築けるように努めており、ご本人の日々のお気持ちに丁寧に寄り添われている。生活歴や有する能力も大切に把握しており、「洗濯物たたみ」「下ごしらえ」「食器拭き」「櫛の入れ替え」等を含め、より良い生活になるように、ご本人の役割作りに努めている。認知能力も把握し、医師の指示をもらい、診断名と症状等に対応した計画が作られている。	①今後も「見守り」「一部介助」等の詳細をアセスメント用紙に残すと共に、2表の中に「ご本人」という表現を増やしていく予定である。 ②アセスメント記録に「生活歴」「できそうなこと」「介助理由」「行動障害の理由」「解決策」等の課題分析結果を増やすと共に、アセスメント内容と計画内容が連動するように努めていく予定である。
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様それぞれのご様子を個別に、詳細に記録するよう努めています。また申し送りやミーティングや伝達ノートにて情報の共有を行っています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族のご要望があれば、他の事業所等と連携をとり、ニーズを充足するための対応を取っています		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で介護事業所としてのアピールは行っており、認知度は上がってきていると感じていますが、それを入居者様の為にうまく利用できていないのが現状です。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在9名のすべてのご入居者様が訪問診療を受けています。月に2度の往診で、医師が入居者様それぞれを丁寧に診ておられ、24時間の対応もしていただきます。必要があれば他の医療機関への紹介状も書かれます。	山茶花在宅クリニック（博多区）の医師3人が対応して下さり、24時間体制で訪問して下さる。職員の観察力もあり、早期報告・対応に繋げており、医師や歯科医師、訪問看護師、薬剤師（新生堂薬局）から日々の留意点の指示を頂いている。往診時に（月2回）、診療情報提供書をもらい、日々のケアに活かしており、症状の改善に伴い減薬に繋がっている。1階のデイの理学療法士からのアドバイスも参考にしている。	

33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自事業所に看護職員はおりませんが、ケアリング内の訪問看護ステーションと連携を緊密にとり、ご入居者様の健康管理に努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーとは緊密に連携をとり、入院時は介護手技の情報、退院時は相手方から情報をもらい、スムーズに、ギャップを最小限にケアを実践している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針作りは継続して行い、必要があれば改定するなどしています。ご家族様と竹の庵を終の棲家としてほしい旨お伝えしていますが、その都度ご家族様と話し合いを行い、支援方法について決定しております。	入居契約時にホームの看取りの指針と「できない部分」等の説明をさせて頂いている。「あなたに会えてよかった」「ここに来てよかった」と思って頂けるよう、職員全員で誠心誠意のケアを続けている。主治医・訪問看護師と連携し、家族との話し合いも続けられ、必要に応じて点滴や吸引等も行われている。終末期は家族も宿泊し、一緒に寄り添いをされる方もおられる。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や応急処置については看護職からの指導を頂いたり、ミーティングにて、事前に考えられるものに関しては、リスク管理の一環として対処方法を確認するように努めています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練や支店全体で避難訓練を実施しております。支店内での連携の仕方をその都度確認しております。	同じ敷地内の「デイサービス」「看護小規模多機能事業所」「グループホーム」の3つの事業所で1つの「支店」が作られており、災害時は支店としての観点を持ち、できることを増やす取り組みを続けている。支店として2人の夜勤者が勤務し、近くに住む管理者等も災害時は駆け付ける体制ができています。管理者も防火管理者の研修を受講しており、年2回の訓練以外にミーティングで避難方法などを共有している。法人用のBCP計画書も完成しており、今後も支店個別の計画を作成予定である。飲料水・非常食（缶詰・缶食品・ゼリーなど、嚥下困難な方も召し上げられるもの）を1週間分準備している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

38	(17)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>竹の庵ではご入居者様を人生の先輩として敬うことを大切にしており、ご入居者様の尊厳を侵害しない介護を心掛けています。まず第一に丁寧な言葉かけを行うよう職員に指導しています。</p>	<p>管理者も職員も「尊厳あるケア」をととても大切にされている。ご入居者を「ちゃん付け」で呼ばないことや、ご入居者の特定の話を職員間で話す場合は居室番号で呼ぶ等を徹底している。羞恥心に配慮し、希望時は同性介助も行われている。個人情報管理も徹底し、紙でもデータでも持ち出しは厳禁にしている。</p>	
39		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員は、ご入居者様の思いや考えを否定、拒否せず、共感することで少しずつ信頼関係を築き、できるだけ気兼ねせず、生活の中で自由な雰囲気を感じてもらえるように努めています。</p>		
40		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員はご入居者様のペースに合わせ、支援方法を臨機応変に行うように努めています。</p>		
41		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>訪問理美容や、美容師免許を持つ職員で2か月で1度の周期でヘアカットを行ってもらっています。入床・起床時は保湿クリームや化粧水を塗ってもらったりなどし、乾燥などによる皮膚トラブルが起きないように支援しています。</p>		
42	(18)	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者様の好みや季節感を意識して献立を作るようにしています。調理とまではいきませんが、おやつ作りをお手伝い頂ける方にはお願ひし、楽しんで頂いています、また生活リハビリの一部として食器拭きをご入居者様にしています。</p>	<p>ご入居者に食事の希望を伺い、献立に取り入れている。主治医や管理栄養士からのアドバイスもあり、日々の食事に活かしている。社長の実家が農家であり、美味しいお米を食べることができ、嚥下状況に応じてミキサー食も準備されている。下ごしらえ、配膳、食器拭きなどの役割を担って下さる方もおられ、干し柿作りも楽しまれている。</p>	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて、食事量を変更したり、栄養補助食品を追加するなどしています。水分の拒否がある方に関しては、ジュースやフルーツを提供するなどして水分の確保に努めています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って頂いています。できる部分はご入居者様にして頂き、職員は仕上げや汚れの有無の確認を行うようにしています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様ごとに排泄の間隔や量について記録から把握し、またご入居者様のご様子やBPSDの出現時などには適宜トイレ誘導を行っています。	布の下着を着用する方もおられ、なるべくMLで排泄できるように努めている。職員間で排泄間隔を共有し、個別誘導を行うことでMLから布の下着に変更できた方もおられ、失禁を減らす取り組みを続けている。「尊厳」「羞恥心」への配慮も行われ、排泄時の声かけの仕方や、腰などのデリケートな部分への触れ方も徹底的に配慮している。ご本人の「恥ずかしさ」に寄り添い、慎重なケアを続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘や下痢による精神状態への影響は、ご入居者様に顕著にみられ、職員はその影響を鑑みて、献立やおやつを工夫したり、水分摂取や運動レクの声掛けを行うようにしています。またドクター指示のもと緩下剤の調整も行っています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週に2から3回実施しています。拒否がある場合は清拭へ変更するなどしています。	「入浴の順番」「湯温」「皮膚状態に合わせたボディソープの希望」「静かにお風呂に入りたいか、音楽はかけて大丈夫か」等を個別に確認している。洗える部分は洗って頂いており、シャワー浴の方は足浴で保温し、1階のデ1の足湯も利用できる。季節に応じて柚子湯や菖蒲湯の入浴剤を楽しまれており、朝晩の陰部洗浄も続けている。今後、浴室のリフォームも検討されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の傾眠傾向が強い方は適宜居室にてお休みして頂くようにしています。		

49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師によって薬は管理して頂くようになっています。服薬内容の変更があった場合はミーティングや伝達ノートにて確認を行い、誤薬や服薬漏れなどのリスクについて確認するようにしています。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活レクとして、サカキの入れ替えや食器拭き、洗濯物たたみをお願いするなどしています。また午後からレクレーションの時間を取り、少しでも生活にハリが出るように支援しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昔、近所に住まわれていた方はよく散歩がてら職員とお家まで外出されるが、その他の方は家族の方と一緒に外出されることが多い。	コロナ以前は公民館に行かれたり、回転寿司などに行かれていた。コロナ禍も感染対策をしながら周囲の散歩や桜の花見、公園、自宅、ドライブ等を楽しまれている。ベランダに椅子が複数あり、日向ぼっこを楽しまれている。	今後もご入居者の馴染みの場所を把握し、外出（ドライブ等）の回数を増やし、ご入居者の気分転換を図っていきたいと考えている。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所でおこなっておりますが、ご入居様のご要望での金銭の使用はあまりありません。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日やイベントの際にプレゼントが贈られてきた際にはお電話をおかけし、ご入居者様にも電話でお話ししてもらっています。またご入居者様の中にはご親戚からお手紙を頂く方もおられ、そのつながりが絶えぬように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	所内は木材を使用し、温かみのある雰囲気です。毎日の清掃で清潔を保つようにしています。また季節ごとに飾りつけなどを行い、季節の変化を感じて頂けるように努めています。	ホームは2階にあり、廊下の天窗（2つ）からも陽が差し込んでいる。温湿度管理を行い、換気も適宜行っている。リビング横の台所に職員が入ると、リビング全体が見えなくなるが、職員同士が連携して見守り体制が作られている。リビングで使用するテーブルの1つを六角形タイプに新調し、使いやすくなっている。座位時間が長くないよう、適宜居室で休む時間もあり、浮腫予防に努めている。リビングの前のキッチンに洗濯物を干しており、皆さんで干したり、たたまれたりしている。	

55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者様のご気分や状態によって、随時対応や工夫を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にご協力頂き、馴染みの筆筒やお写真などをお持ち頂き、居室に置いて頂いております。	居室入口の名札の横に写真を貼っている方もおられる。入居時に「馴染みの物を持参できること」を説明しており、ご本人が安心できる品物（洋服・写真やアルバム・筆筒・鏡台・リハビリ機器等）を持ち込まれている。其外用紙に「自宅の室内見取り図」が記載でき、自宅訪問ができる方は自宅の見取り図を追記する予定である。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様ができること、したいことを支援することと入居者様の安心・安全を守ることを第一の目標とし、支援を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				